

よりん彩

第41号
2012.11



智頭急行 村上真奈美さん



絵本と食育 「はらぺこあおむし」さん

特集

防災・災害復興に女性の視点を!

- 鳥取県での防災分野における女性の参画状況は…………… P2・3
- 取り組み紹介(鳥取市)…………… P4
- 防災・災害復興に取り組む思い紹介(川本智子さん) …… P4

・ きらり輝く(智頭急行)村上真奈美さん
(団体)絵本と食育「はらぺこあおむし」さん…………… P5

- ・ さんかくボックス オープン
- ・ よりん彩相談室より…………… P6
- ・ 情報ライブラリー…………… P7
- ・ お知らせ…………… P8



鳥取県男女共同参画センターの愛称「よりん彩」とは「ちょっと寄ってってくださいな」という意味の言葉で、気軽に利用していただきたい、老若男女いろいろな色(彩)を寄せ合って男女共同参画社会づくりの輪が広がってほしいという願いが込められています。



防災・災害復興に女性の視点を！

災害は、男性にも、女性にも突然襲いかかってきます。直後の避難をどうするか。避難先での生活をどうしのぐか。家族で、職場で話し合っている方も多いのではないのでしょうか。今回の特集では、防災・災害復興期における男女共同参画についてみなさんと考えてみたいと思います。

第3次鳥取県男女共同参画計画では…

重点目標4 地域の様々な分野における男女共同参画の推進

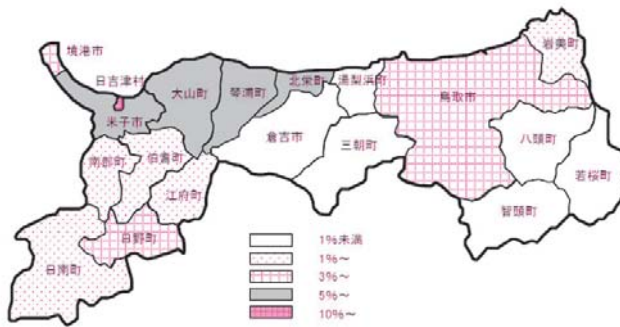
(1)「防災・復興分野における男女共同参画の推進」

- 防災・復興計画や各種マニュアルの策定には、多様な意見を取り入れる必要があるため、防災会議などの意思決定の場への女性の参画を推進します。
- 被災時、復興時には、女性、子育て、高齢者などのニーズを把握した被災者支援を行います。
- 地域の防災や消防の活動に、女性の参画が進むように働きかけを行います。

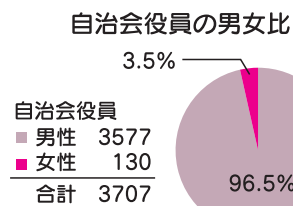
鳥取県での防災分野における女性の参画状況は…

平成23年度 鳥取県男女共同参画マップより

市町村の自治会役員（会長・副会長）に女性はどのくらいになっているの？



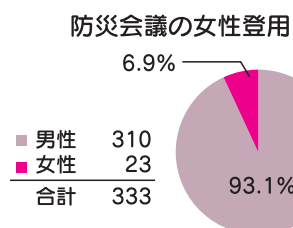
女性の参画率 3.5%



市町村の防災会議に参加する女性はどのくらい？



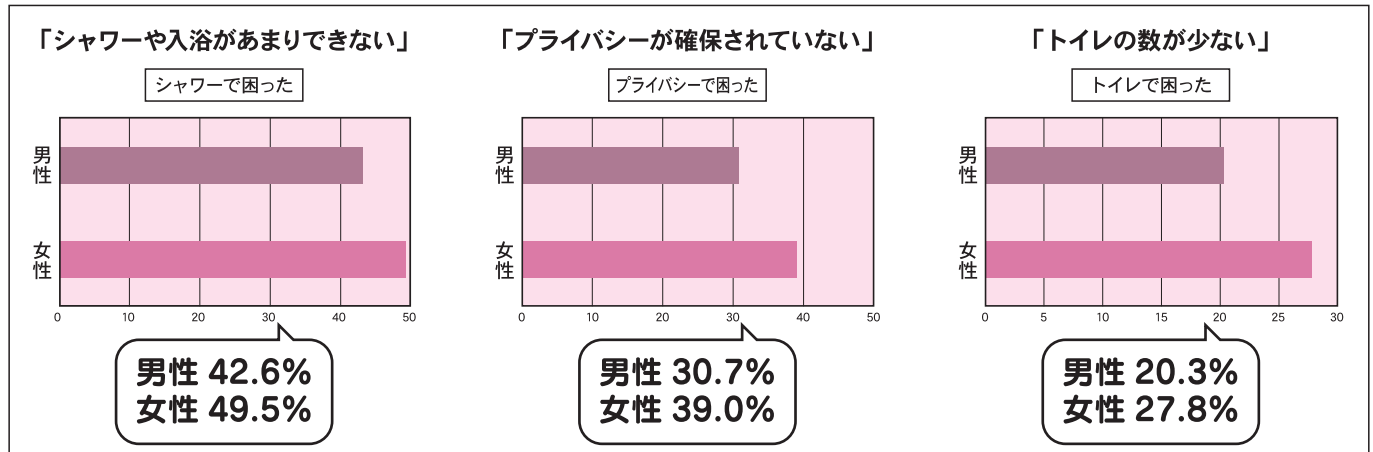
女性の参画率 6.9%



鳥取県では私たちの生活を支え、いざというときに備えて「鳥取県地域防災計画」を策定しています。

しかし、市町村の防災計画を話し合う会議に参加する女性の割合は、6.9%と少なく（左頁資料参照）、第3次鳥取県男女共同参画計画で取り組んでいる「多様な意見を取り入れる」ための取り組みは、進んでいるとはいえない状況です。

内閣府・消防庁・気象庁「津波避難等に関する調査」（平成23年）によると、「災害直後からの避難所での生活について困っていること」での男女差は、下図のようになっています。



女性にとって、避難所での生活は男性よりも不便で、不安なものになっている実態がわかってきました。また、東日本大震災女性支援ネットワーク発行の「こんな支援が欲しかった！現場に学ぶ、女性と多様なニーズに配慮した災害支援事例集」によると、

女性のニーズを聞き取る際には、男性避難者の理解を得て、別室で個別に聞き取りをしたり、リクエスト票での間接的な要望とりまとめをしたりした。

長期にわたる炊き出し業務による女性の疲弊を軽減するために、ローテーションを組み、男性や若者も仲間に組み入れた。

大規模施設を利用した避難所では、プライバシーを守るために「女性専用スペース」を設置した。

など、現場での困りごとを女性も交えた話し合いのなかで解決していった様子があげられています。

災害発生後、実際に避難所の設営・運営を担うことになるのは地域ごとの自治会が多く、その役員はほとんどが男性です。（左頁資料参照）その結果、「女性等への配慮が必要である」との認識が十分浸透しなかったことも指摘されています。

防災・災害復興への女性の参画率を増やすことはもちろんです。しかし、災害はいつやってくるかわかりません。日頃から、女性や高齢者、障がいのある方など様々な視点での要望を声に出しやすい雰囲気や、出された意見を聞き入れていく雰囲気を培っておく必要があります。

セミナーのお知らせ

よりん彩では、特集と関連して下記セミナーを開催します。

日時 12月11日(火) 13:30～16:00

場所 とりぎん文化会館 第4会議室

テーマ 「防災・復興と男女共同参画～東日本大震災避難所運営から学ぶ～」

*詳しくはよりん彩ホームページをご覧ください。

鳥取市の 取り組み紹介！

★「女性と男性が性別に関わりなく、防災・減災について参画することを学ぶことにより地域活動・まちづくりへの男女共同参画の基礎知識の習得を図る」ことを目的に9月8日（土）にセミナーが開かれました。

< 第1部 >

講演 「みんなの知恵と力をあつめよう～地域防災のポイント」
講師 NPO政策研究所 専務理事 相川康子さん

< 第2部 >

鳥取市防災コーディネーターの前田雅之さんの解説により、災害時を想定した避難所運営（HUG）を疑似体験しました。

避難所運営模擬体験 HUG: ハグとは

静岡県が開発した避難所運営模擬体験ゲーム。

避難者についてのカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、さまざまな出来事にどう対応していくかを体験によって学ぶことができます。



鳥取市防災コーディネーター
前田雅之さんにお話を伺いました。



■鳥取市防災コーディネーターの仕事は？

自主防災会の活性化のため町内会に出向き防災講習会等を開催しています。

■ワークショップで伝えたかったことは？

実施した「HUG」避難所運営ゲームは、ライフラインの破壊で行政の手が避難所まで届かない状況を想定し、地域住民の皆さんが共助の精神で自ら避難所の運営をして頂く仮想ゲームでした。

このゲームを通じて万一災害が起こった場合スムーズな避難所の運営はもとより「自分の身は自分で守る・共に助け合う」考えを皆さんに持って頂くことを狙いとしています。

■実際に災害に遭ったら？

実際には数限りない、多様なニーズが被災者から寄せられます。その場を仕切る人も被災している場合が少なくありません。様々な人の声を拾うには、固定的な意識にとらわれることなく、普段から、意見が出せる環境を整えることが求められます。

災害・復興に 取り組む思い紹介！

●消防士になるきっかけは？

わたしは大阪市出身です。身近に医療関係者が多く、医師となって人の命を助ける仕事に就きたいと思っていました。しかし、医師にはなれず一般企業に就職し2年ぐらゐ勤めたころ、「自分の目指していたものは、人を助ける仕事ではなかったのか。」という思いにかられ、救急救命士の資格を目指して、勤めを続けながら3年間、専門学校で夜間部に通いました。

救急救命士として働くには同時に、消防士にならなければなりません。消防士受験資格の年齢を調べ、自分の年齢で受験できる自治体は限られていた中で、幼い頃から何度も海水浴や雪遊びに訪れていた鳥取県の西部地域では、受験資格が得られることを知りました。生まれ育った大阪を離れても、自分の夢である「人の命を救う仕事」を選びました。

●男性が多い消防学校での訓練で、辛かったことは？

「人の命を守る」という思いを行動にするとときに扱う機材は、どれもとても重いものばかりです。消火用ホースも、水を通すと大変な重量です。まずは、筋力・体力のアップが大きな課題でした。訓練の中でタイムを計ると一番遅くなってしまうこともありましたが、教官に「人の命を救うには、結果がすべて。努力している姿を見せても、出来なければだめ。」と言われ、ひたすら体力トレーニングと、体力の不

鳥取県西部広域行政管理組合
米子消防署消防士
川上智子さんに
お話を伺いました。



足を補う技術力の習得に励みました。

●防災や復興期における男女共同参画の推進のなかで、女性ももっと主体的に行動をしていくことが求められていると思いますが。

大規模な災害が起きたとき、すぐに消防士が救助現場に行けない事態も起こり得ます。「自助・共助・公助」という言葉のとおり、まずは自分の力で避難したり、近くにいる人々で助け合ったりすることが重要ではないかと考えます。

日頃から自分の家や街を客観的に見ておくことをおすすめします。「自分の家が平屋かマンションか。」「マンションであればエレベーターが止まることもあります。非常階段はどこか。」「近所の大きな木は倒れて道をふさがらないか。」「近くの工場は災害時に火災が起きた場合には、どのような行動をすればよいのか。」など、平常時にシュミレーションしてみるだけでも、いざというときの行動に違いが出てくると思います。また、職場や地域の避難訓練に積極的に参加することも大切なことと考えます。

●今後の抱負は

どんな現場にあっても冷静さを失わず、命のやりとりにつながる些細な変化を見逃さない「気づき」のできる消防士・救急救命士になりたいと思います。

きらり輝く

活動している団体や
人物を紹介します。

智頭急行車掌 村上真奈美さん

智頭急行に車掌として勤務されて7年目。「スーパーはくと」の安全で快適な運行のため、様々な業務を行っておられる村上真奈美さんにお話をうかがいました。



●車掌になったきっかけは

高校にきていた求人票を見て、初めて車掌という仕事を意識しました。「こういう仕事があるんだ。外に出かけるのが好きなので、向いているかも。」と思い、入社試験を受けました。

●仕事内容を教えてください

倉吉駅と上郡駅の間128kmを1日に何度も往復します。駅での改札、出発前の安全確認、ドアの開閉、車内放送、乗車中の検札などが主な仕事です。車両を移動しながら、変わったことがないかの確認も行います。朝6時すぎに出勤の日や夜9時前まで勤務の日もありますが、3～4日に1日の休日があり、リフレッシュしています。

●大変と感じることは

多い時には300人のお客さんの安全を任されることになります。緊急事態が起こり、応援が来るまで一人で対応しなければならない時、きびしさを感じます。

●やりがいを感じるのは

一人一人のお客さんの声を聞き、対応するように心がけています。トラブルの時、納得してもらえる説明ができると、よかったですと思います。自分の仕事をきっちり終え、次の車掌に引き継げると、ほっとします。

●これからの抱負はありますか

外国人のお客さんが増えてきたので、英会話を勉強しています。マニュアルはあるのですが、自分の言葉で案内や説明ができるようになりたいです。

●若い世代に向けて メッセージをお願いします

一人で大勢の人に対応する仕事は、なかなか無いと思います。人と接する中で、自分が成長していける仕事です。目指す人がたくさん出てほしいと思います。

絵本と食育「はらぺこあおむし」

絵本の読み聞かせと食育をコラボし、親子や地域の絆を深める活動を行っておられる団体です。絵本「はらぺこあおむし」のようにしっかり食べることの大切さを考えて活動しておられる代表の衣笠優子さん(倉吉市)にお話をうかがいました。

●活動をはじめたきっかけは

子育ての経験から心と体を支えるものとして「食」の大切さを感じました。もともと、読み聞かせボランティアをしており、仲間と共にはじめたのです。

●活動をされてよかったことは

保育園や子育て支援センターなどに集まってくださるみなさんが笑顔で参加してくださることで。初めて出会った方々でのお喋りがはずみ、新しい絆をつくるお手伝いができる、私たちも楽しくなります。

●活動の中で心がけていることは

できるだけ季節の食材を取り入れて、実物に触れる活動をしています。「お店で買う」のではなく、



「自分で作る力」や「食べ物を自分で選び取る力」を身につけてほしいですね。

●今後の活動に向けて

忙しい毎日の中で、「食」に時間や手間をかけることが難しくなっています。しかし、体をつくっている食べ物は、その一口を大切にしてほしいと思います。今後は、ちょっとした工夫でおいしく、栄養面でもランクアップするようなレシピを提案していきたいと思っています。「自分で作れるんだよ」と、子ども達ははじめ、いろんな世代の方に伝えていきたいです。

オープン!

さんかくボックス

よりん彩の隣に新たな活動拠点が誕生しました。「男女共同参画を推進する部屋」という意味で「さんかくボックス」と名付けました。男女共同参画を推進するためのセミナー、展示、イベント等に無料で貸し出しをします。



～おしらせ～

鳥取県の最低賃金について

1時間 **653**円

発効年月日 平成24年10月20日

特定(産業別)最低賃金

鳥取県電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金

1時間 **735**円

発効年月日 平成24年1月27日

鳥取県各種商品小売業最低賃金

1時間 **695**円

発効年月日 平成24年2月9日

よりん彩相談室より

あなたの『選択』を尊重して

～増加している離婚にかかわる相談～

相談室には日々『こんなこと話してもいいですか』『どうしたらいいかわからないんですけど』などの第一声が届きます。この頃の相談では離婚についての相談が増加しています。全国的な傾向と同じく、若年層ほど高い離婚率です。子どもがいる場合、子どもの年齢は低い、就労していない、経済状況が不安定など解決すべき問題を多く抱えています。

『離婚のことで相談をしたい』と言っても、すでに離婚を決意している人、パートナーから『離婚』と言われて、途方に暮れている人、全く話し合いができない人など状況は様々です。

まずは、①離婚についてあなたはどのように思っていますか？

②パートナーはどう言っていますか？

③周りの家族に相談していますか？そして、どう言っていますか？協力を得られそうですか？

など状況の整理をして、改めてどんな選択をするかを共に考えます。

離婚をする、しないいずれを選ばれたとしても、手続きやサービスなど必要な情報の提供、法律相談の利用などについて一緒に考えます。相談にこられる以前よりも、安心で、安全な暮らしが出来るようサポートしています。

*相談室の情報は裏面をご覧ください

ミニ講座のお知らせ

*「離婚を考えたときに…」

講師：とよだ ようこさん(マリッジカウンセリングゆりはま)

期日：平成25年2月9日(土) 13:30～15:00

場所：米子市福祉保健総合センター ふれあいの里

*「自分らしい老後を迎えるために知っておきたい法律(遺言・相続等)」

講師：法テラス弁護士

期日：平成25年3月2日(土) 予定

場所：鳥取市総合福祉センター さざんか会館

*詳しくはよりん彩ホームページをご覧ください。

おすすめBOOK 防災に活かす 女性&男性の視点

男女の立場の違いにより、災害時のニーズや困難に違いがあることが、近年の事例からわかってきました。そのため、防災や支援に男女双方の視点を取り入れることが、困難の解決やきめ細やかな対応につながるといわれています。これからの取り組みの参考となる、ポイントや事例が紹介された図書がたくさん入りました。



女性×男性の視点で総合防災力UP 浅野幸子・著 日本防火協会2012年

「災害対策と支援活動になぜ男女双方の視点が必要なのか」をわかりやすく解説したハンドブック。個人、家庭、地域、自治体、防災機関などで、どのようなことに取り組むべきか。具体的なアドバイスがもらえる1冊です。



女たちが動く

東日本大震災と男女共同参画視点の支援 みやぎの女性支援を記録する会・編著 生活思想社2012年

NPO、地元紙の記者、自治体職員、女子学生など、様々な立場の女性達が、震災直後から女性のニーズを聞き取り、支援を続けました。日頃からの積み上げが、非常時に生かされると実感できる記録集です。



わたしたちの震災物語 ハート再生ワークス 井上きみどり・著 集英社

仙台市在住、自らも被災した著者が、被災地の様子をマンガで記録し、伝えます。「赤ちゃんの一時避難」「三陸に仕事をつくる“浜のミサンガ環”」「子ども達の冒険遊び場づくり」「被災地のトイレをきれいにする」など、当事者とボランティアの方々が取り組んだリアルな体験談。忘れず、生かしていかなければなりません。



被災ママ812人が作った 子連れ防災手帖 つながるcom編 メディアファクトリー2012年

震災直後に立ち上がったネットワーク「つながる.com」に集まったママ達の体験をまとめた防災マニュアル。避難所での生活、心に傷を負った子どものケア、揺らぐ家族の絆…子どもがいる家庭がこれからとるべき行動の参考になります。



女性のためのBOOK anan特別編集 マガジンハウス2011年

被災された女性達にリサーチした「女性にとって本当に役立つグッズ」を紹介。もしもの時に女性を守ってくれるのは、実はこんな物だったのです。自分の防災袋を作る時や、支援物資として送るべき物を知るための指針となる本です。

学校での調べ活動をお手伝いします

人権学習や保健学習での調べ活動に、情報ライブラリーを利用される学校が増えてきています。取り組みの一例を紹介します。

- ① テーマや活動内容について、学校の先生とよりん彩スタッフで事前に打ち合わせをします。「男女の人権を保障するためには」「デートDVをなくすためには」などのテーマが、よく取り組まれています。
- ② 生徒が来館し、スタッフから概要の説明や資料の紹介を聞きます。
- ③ ライブラリーで資料を探し、使いたい資料の貸し出しを行います。

「学校には無い資料が揃っている」「マンガやイラストのわかりやすい資料がある」など、活用された学校から好評をいただいています。



- ・よりん彩スタッフが学校まで出向き、授業の中で説明を行う「出前授業」も行っています。
- ・学習にあわせた図書を長期間貸し出す「団体貸出」も、活用できます。
- ・学校の先生方、お気軽に、ご相談ください。

利用のご案内

- ・貸出点数 — 図書 10冊、ビデオ 2点 ・貸出期間 — 3週間
- ・団体貸出 — 100冊、8週間の貸出ができます。
- ・よりん彩ホームページや「鳥取県図書館横断検索」で資料がさがせます。
- ・県立図書館や市町立図書館に申し込み、取り寄せができます。

お知らせ

ご利用ください!!

あなたの企画を応援します。

平成24年度 よりん彩活動支援事業補助金

県内で活動する団体やグループ、企業、若者グループが、男女共同参画を学ぶ目的で、自ら企画・運営する講演会や学習会等に対して補助金を交付します。

若者企画講座

県内の学生や若者が企画し、一般へも呼びかける講座
上限 15 万円

公開講座

広く一般に公開し、50名以上の講座
上限 12 万円

研修支援講座

自治会、企業、PTA等の団体が開催する学習会や研修会
上限 2 万 5 千円



自分磨きセミナー

日時 12月11日(火) 13:30~16:00

会場 とりぎん文化会館

内容 テーマ 防災、復興と男女共同参画
講師 長沢涼子さん(福島県男女共生センター副主査)

日時 12月16日(日) 13:30~17:00

会場 とりぎん文化会館

内容 テーマ 男女間におけるあらゆる暴力の根絶
講師 伊田広行さん(立命館大学非常勤講師)・辻由起子さん(大阪子ども虐待防止アドバイザー)

日時 1月22日(火) 13:30~17:00

会場 米子コンベンションセンター

内容 テーマ ワークライフバランスと男女共同参画
講師 瀧井智美さん(龍谷大学講師)
トークショー 働く子育て世代のママ、大学生、企業経営者他

日時 3月1日(金) 13:30~16:00(予定)

会場 米子コンベンションセンター

内容 テーマ 性犯罪被害から考える
講師 小林美佳さん(みかつき)
講師 小嶋ゆかりさん(県警察本部 警部)

よりん彩活動支援事業「公開講座」

売れる!! 農業セミナー Part3

ともに働き、ともに暮らす農業
～食と農の尊さをどう伝え、どうつながっていくか～

日時 12月5日(水) 9:50~15:40

会場 倉吉交流プラザ第1研修室

内容 講演 宮澤昌子さん
トークセッション 県内農業者による
主催:ファーマーズネットワーク in とっとり

パパの育児講座

日時 12月9日(日) 10:10~12:20

会場 日野町山村開発センター

内容 講演 松本誠二さん
親子で体操「ちゃれきんぐ」専任講師による
主催:日野郡男女共同参画連絡会

第5回 女性農業者の集い

日時 1月22日(火) 10:00~14:30

会場 鳥取西部農業協同組合会議室

内容 講演 福島恭子さん
「自然に感謝～楽しもう農業!仲間と共に」
主催:女性農業者の集い実行委員会

鳥取県男女共同参画センター **よりん彩**

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212-5 倉吉未来中心1階

電話(代表) **0858-23-3901** FAX **0858-23-3989**

HPアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/yorinsai/> 電子メール yorinsai@pref.tottori.jp

センター相談室(倉吉:よりん彩内)

電話:0858-23-3939
火曜日~日曜日 午前9時~午後5時
土、日、祝日可(月曜が祝日の場合は翌日が休み)
専門相談(心の相談・男性相談・法律相談)も
行っています。各相談室にお問い合わせください。

東部相談室 (県庁第2庁舎1F)

電話:0857-26-7887

西部相談室

(米子コンベンションセンター4F)

電話:0859-33-3955

月曜日~金曜日 午前9時~正午、午後1時~5時
(第3木曜日は午前9時~11時30分)

※広報誌「よりん彩」へのご意見、ご感想などお寄せください。次号は平成25年3月発行予定です。
よりん彩ネット・電子メールの配信をご希望の方はよりん彩メールアドレスへご連絡ください。